

(科目コード : 2000220004MM)

【改訂】第18版(2016-03-10)

【科目】哲学

【科目分類】 一般科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 後期・1単位

【対象学科・専攻】 機械 4年

【担当教員】 齋藤 和義

【授業目標】

「いかに生きるか」「世界はどういうものか」などを問う哲学に関心を持ち、哲学とは何であるかを理解することができる。

西洋哲学の歴史のなかで、何人かの優れた哲学者の著作を学ぶことを通して、哲学の基本的な思考を理解し、自らも哲学するきっかけを作る。

特に近代科学を基礎付けた近代哲学の学びを通して、哲学的な認識論、科学論、人間論を理解することができる。

近代民主主義の根本概念でもある「自由」や「正義」にかかわる主題を哲学の問題として扱い、現代社会の諸課題と関連付けて考察することができる。

【教育方針・授業概要】

- ・本科目の総授業時間数は22.5時間である。
- ・西洋の哲学の主題を提示しつつ、哲学書を読み、その読解をしつつ、君たちと一緒に考えていく授業を心がけたい。君たち自身が哲学するような動機付けになるようにしていきたい。いろいろな疑問・質問を提起してくれることを期待する。
- ・西洋哲学のテーマの中で、ギリシア哲学から「幸福」「正義」などについて考える。
- ・近代哲学では、デカルト、カントを通して人間の認識能力とその限界について、心身問題、科学の限界などを考える。
- ・現代哲学では社会主義や実存主義などを取り上げる。

【教科書・教材・参考書等】

教材：『テオーリア 最新倫理資料集』：第一学習社：3年生「倫理」で使用したもの

参考書として薦めたい本

(古典)

プラトン『ソクラテスの弁明』『饗宴』『パイドン』など、ソクラテス対話篇(岩波文庫、新潮文庫)

デカルト『方法序説』(岩波文庫)

(哲学の入門書)

岩田靖夫『いま哲学とは何か』(岩波新書)同『よく生きる』(ちくま新書)

伊藤邦武『物語 哲学の歴史』(中公新書)竹田青嗣『哲学ってなんだ』(岩波ジュニア新書)

石川文康『カント入門』(ちくま新書)

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式で行なう。

【成績評価方法】

[後期]中間試験：40%、期末試験：40%、レポート等：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	哲学という学問の意義、目的、方法を理解する。	50 %	中間試験20%、期末試験20%、レポート等10%の割合で評価する。
2	哲学がこれまで対象としてきた主要な問題について学ぶ。	50 %	中間試験20%、期末試験20%、レポート等10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(哲学)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	イントロダクション 哲学とは何か	授業の方針、哲学と倫理、哲学と科学		
第2回	ギリシア哲学()	ソクラテス・プラトンの倫理、幸福論		
第3回	ギリシア哲学()	プラトンの政治思想、正義論		
第4回	ギリシア哲学()	アリストテレスの幸福論、政治論		
第5回	近代哲学()	デカルトの懐疑論、合理主義、二元論		
第6回	近代哲学()	ロック、ヒュームの認識論	レポート	
第7回	近代哲学()	二元論の問題		
第8回	中間試験			
第9回	ドイツ観念論()	カントの批判哲学() 認識論		
第10回	ドイツ観念論()	カントの批判哲学()		
第11回	ドイツ観念論()	ヘーゲルの哲学		
第12回	現代哲学()	マルクスの資本論		
第13回	現代哲学()	キルケゴールの実存哲学	小論文	
第14回	現代哲学()	ニーチェの思想		
第15回	現代哲学()	ハイデガーの思想		